
こころ

karara

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こころ

【コード】

N1308C

【作者名】

karara

【あらすじ】

恋愛やいろいろなことでもどかしい「こころ」をテーマにしています。

いじろ

だれにも伝わらない言葉を

何度のみこめば

だれかに伝わるのだろう

想いをのせて

伝える声は

いつか私に

届くのだろうか

おもい、とおく(前書き)

恋をテーマに書いた作品です。

おもい、とおく

《おもい、とおく》

気の遠くなるようなほど永い時間

ただ

この想いに囚われていた

永遠に交わらない

あなたへの想い

ほかの誰を思っても

気持ちは

あなたに還る

・・・たすけてください・・・

これ以上

捕まえられない想いなら

もう、いらない

《みつめるおもい》

そばにいれば

気持ちは

かわらないと思っていた

私をこえて

遠くを見る目も

短くなった電話もメールも

ほんとうは

少しずつ

全部ぜんぶ気づいていたけど

あなたの見つめる先にいたのが

私のもとだちだったこと

それが、悲しい・・・

《こえ》

ほんとうに思ってることを伝えたいのに

なぜ伝えられないのだろう

想いは

確かにここにあるのに

声に出して

音になると

すべてがウソになってしまう

だから、言えない

ただ 「そばにいたい」 こと

あなたが 「だいすき」 なこと

伝えたいことは

それだけ

《はるかな、じかん》

だれよりも だれよりも

あなたを想っていたい

これから先の

永い時間

気の遠くなるようなトキを越え

気の遠くなるような想いを乗せ

だれよりも だれよりも

あなたに想われていきたい

そばにいて

はなして

わらって

そんなあたりまえの時間を

大切に思う

ケンカも

ナミダも

すべてを大切に思う

日々がいつまでも続くといい

はつこい

《かわらぬ、おもい》

そつと つないだ指先から

伝わるぬくもり

ふたり

なにも話さないけど

その沈黙がとても心地よくて

ずっとこのままでいたいと、おもっ

たまに話しかけてくる

はじめてみた

あなたのぎこちない顔

それがとてもかわいくて

思わずえがおになっ

てしまっ

ゆっくりと・・・
このまま

ゆっくりでいい

はじめてのこの恋が

ずっと ずっと

つづいていけばいい

《ありがとう》

あなたに出会えたこと

それがわたしにとって意味をなしたのは

出会ってから

もうずっと

ずっとアトのはなし

ホカノヒトをみつめてた私のそばで

なくさめたり

ときは

怒鳴ったりして

支えてくれた

守ってくれていたことには気づいたのは

出会ってから

もずっと

ずっとアトのこと

ありがとう

いまなら素直にそう言える

あたりまえすぎて気づかなかった

あなたからの

ふかい

ふかい想いを

やっと今受け止めて

ふたり

歩き始める

《きみをおもつ》

とおくにいつてしまったキミを

今になって思い出す

泣いたり

笑ったり

怒ったり

トキには

まるでボクが存在がなくなったかのように

ふるまっていたキミ

いろいろな力才をみせるキミを

あの頃のぼくは幼すぎて

受け止めることができずにいた

おとなになり

上つ面の社会になれてしまったせいなのか

今になり

あこのろのキミの全てを

なつかしく思い出す

あこのろ

この澄み渡った空のように

すべてに素直だったキミが

どうかしあわせであるように・・・

みちのり

《ふたりのきより》

ちいさな音から

おおきな音へ

日ましにふくらむこの想い

今日もあなたに会えるといい

わすれていた

だれかに会いたいと思う気持ち

わすれていた

いつもだれかが心にいる、あたたかさ

遠い距離から

近い距離へ

いま、わたしたちは

どこまで近づいているのかな

《ちかく、とおく》

ふれあうように

ふれあえない

このもどかしくて

狂おしい

ふたりのきより

手をのばせばきつと

この手は

あなたをつかまえられる

けれど そうしない

あなたも

わたしも・・・

狂おしく

いとおしさがこみあげ

この距離が

近づけば

全てをこわすこと

知っているから

《じかんのみちのり》

きこえないフリをして

言葉をかわす

そんな癖だけが

いつか

あたりまえになる

わかりはじめたのは

あなたと過ごすじかんが

とても長くかんじはじめたことに

気づいてしまったから・・・

あなたと

ふたりで過ごしたじかん

いつもとても短く感じた

こころが離れるということは

じかんを

一緒に過ごせないこと

じかんを共に過ごせなければ

ふたりでいる

意味などないのに

ふたりでいるのに

ひとりで過ごす・・・

そんなかなしいことは

もう

やめよう

《ながいたび》

ふたりに旅をして

たどりついた先には

ふたりにしかわからない

ながく、せつない道のりがあったと

ある日ふと漏らした

祖母の言葉

そのかおは

さびしげで

けれど次の瞬間には

もう しあわせそうな顔をしていた

「ふたりに生きる」

というのは そういうことかもしれない

泣き叫んでも 怒鳴りあっても

呆れても 嫌になっても

それでも最期はそばにいる

そいとげる、想い

また

いつか会えるまで・・・

いきる

《しあわせへのみち》

生きていてよかったと

思える日はかならずくる

たくさんのおいさな不幸も

たったひとつのおおきな不幸も

乗り越えられる日が

かならずくる

なみだが枯れるほど泣いた日々が

決してムダになることはない

そう。

生きてさえ、いれば

《ねんげつ》

ひとつ

ひとつ

トシをかさねて、

ひとつ

ひとつ

身動きがとれなくなっていく

そう感じていた、あの頃を

なつかしく思い出す

春には春の

夏には夏の

これから迎える

秋も、冬も

いまはただ

この何気ない日々を過ごせることを

しあわせに思う

まいにち

まいにち

同じことを繰り返し

ただ生きているだけだと

感じることはたくさん

たくさんあつたけれど

歳をかさねることへの

ほんとうの

自由の意味に、

いまようちく

わたしは

気づきはじめている

《このてのなかに》

なにもない

人などいない

あなたは必ず

何かをもっている

だれにも愛されない

人などいない

あなたは必ず

だれかに愛されている

気づけない日々は無償に過ぎ、

気づいてからの日々は

じぶんを少しだけ、

すきになれる

わたしもそれに気づけたのだから

あなたもきつと

わかる日がくる

《きずあと》

きょうも生きていると思つて

かなしくて

明日もまた生きてると思つて

せつなかった

この思いを捨てに

旅にでただけ

同じような境遇でも

心は

分かり合えないことを知り

また、泣いた

人はひとりじゃ生きていけないというけれど

自分のこころは

自分だけのもの

それがわかったとき、

生きていてもいいんだよ、と

やっとだれかに言われたよつな気がした

はざま

《 スキ キライ 》

いっしょにいるときに

ケータイばかりさわる

そんなあなたが

とてもキライ

手をつないだときに

無口になる

そんなあなたが

とてもキライ

わたしより友達を優先する

そんなあなたは

もっとキライ

キライなところを数えると

キリがないけど

不器用に大切にしてくれる

そんなあなたは

とても、スキ

《 キモチ 》

あなたのキモチがわからないから

いつもいつも不安になって

いつもいつも

困らせる

それはあたしの悪いクセ

あなたのキモチをたしかめても

なんどもなんども

困らせて

いつもいつでもたしかめなくなる

きらわれてもしかたないのに

それでもあなたは笑ってくれる

その瞬間に

あたしはあなたを

もっともっと、スキになる

《 キズキ 》

カミを、さわられた

それが、はじまり。

アナタへのキモチの変化に

とまどうジブン

アナタへのキモチにいままで

気づかなかったジブン

触れられて、

はじめて知ったちいさなオモイを

もっとタイセツにしたくなった

カミを、切ろうとオモツテタ

けれどもう、ヤメルことにした

アナタがホメテくれたこのカミが

今のワタシの、1番のジマンになったから

《 ミライ 》

今までのように、笑えない。

なぜかそう、おもった

キライになったわけじゃなく

イヤになったわけでもない

けれど

今までのように、笑えない

なぜかそう、感じてた

だから決めたの

『 さよなら 』

わたしのミライに

あなたはいいりません

《 ヒトリとフタリ 》

ヒトリになるのがこわいなら

そばにいればいい

キモチがはなれていようとも

アナタがアナタで

いられない人のそばに

ヒトリになるのがこわいなら

そばにいればいい

ジブンのキモチにウソをかさねて

フタリだから寂しくはないと

虚栄のなかで生き続けるだけ

ただアイテに寄り添って

よりかかっていけばいい

ヒトリになるのは

コドクとはちがう

ジブンをつよく、するジカン

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1308c/>

こころ

2010年10月11日04時02分発行